

葉に甘えて、車から窗外を歌い始めた。食事をし
た。お正月の朝十時ごろに新年の電話
をしたところ、朝刊がこないと嘆いて
いました。父母がコーヒー好きでした
ので、幼いころからわが家は日本茶よ
りコーヒーの家でした。親戚の人から
「子供なのにコーヒーを飲んで大丈夫
?」とよく言われたものです。そのと
きはまだインスタントコーヒーを飲ん
でいたのですが、ある日、コーヒーメ
ーカーなる物がわが家に届きました。
ポコポコと音を出しながらお湯がコー
ヒー豆に注がれ、良い香りが漂ってい
くのがうれしかったのを思い出しま
す。このときの体験がコーヒー店開業

自分サイズのお店! こんなコーヒ
ー屋さんを開きたい!。もう十年以
上前になりますが、どんなお店を作ろ
うかと悩んでいた私は愛知県岡崎市で
「これだ!」というお店を見つけた。
た。

民 報 サ ロ ン

先日、三十年来の友人 三人で冬を元気に乗り切
ることにし、美濃紙を持
り、二元気に春を迎えよ
う」と約束しました。

へ導いてくれたのでしょうか。

さて話は戻って、住宅街にひっそり
とたたずむお店を偶然見つけて入った
ところ、何とも気持ちのいいお店。六
十代の女性が一人でやっていらっしや
る客席数十五席ほどのお店。清潔でコ
ーヒーの香りが店内に漂い、お客さま
が談笑しています。店主一人のお店で
当店のコンプレックスは、「女性が一人で

自分サイズのお店



長谷川 修司

すから、注文が重なるとうとうしても時
間がかかります。でも誰も文句を言い
ません。本を読んだり、お友達とお話
をしたりして、まるで出来るかのような
待つことを楽しんでいるかのような雰
囲気。狭い空間にオーナーの思いがぎ
ゅっと詰まっています、そこにいる誰も
が幸せな気持ちになれる場所でした。
コーヒー屋さん探しが始まります。そ

もうそのころは自分たちのお店の開業
が決まっていたのですが、このお店は
私たちがそれまで頭の中で漫然と考
えていた「こういうお店にしたい」とい
うイメージを形にしたものでした。
その店主には親切に何でも教えてい
ただきました。本当に感謝しています。

もちろんコーヒーはおいしいものを
探しました。コーヒーの生豆(なま
め)を自分で焙煎(ばいせん)する「自
家焙煎」の店にして鮮度のいいコーヒ
ーを提供したいとも考えていました。
行き着いたのは仲間がコーヒー豆を農
家からじかに買い付ける団体「LCF」
でした。誰でも手に入れられるコーヒ
ー豆ではなく、このお店でしか飲めな
い味を出したかったからです。仲間任
せではなく私自身も平成十八年から直
接農園を訪問し、現地の農家と交流を
深めています。現地に行くたびに農家
さんの苦労が分かり、コーヒー豆がい
とおしくさえ思えることがあります。

(矢祭町小田川、珈琲香坊店主)

紙い合フリーダイヤル
本問 0120-0803344

除く午前10時〜午
まで受け付けてい